

## 経営者への活きた言葉

### 人生は順逆の連続である その順逆を越える

1. 人生は順逆の連続という。順逆をこえるとは、順境にも逆境にも負けない自分を創るということである。昨年末、NHKテレビで日野原先生のドキュメンタリー番組が放映された。インフルエンザで39度の熱がありながら、子供たちとの約束だから、と地方講演に向かわれる姿をテレビは映し出していた。その先生が作られた句がある。  
「百歳はゴールでなく関所だよ」
2. 中江藤樹に次の言葉がある。  
「順境にいても安んじ、逆境にいても安んじ、常に担蕩々として苦しめるところなし。これを真楽シンラクというなり。萬マンの苦を離れて、真楽を得るを学問のめあてとす」。  
順境の時、人はつい慢心しがちになる。順境のあつて傲慢ゴウマンにならず、謙虚に心を落ち着かせる。逆境の時もへこたれず、心が安定している。どんな状況でも心が平らかでゆっくりとし、状況に振り回されない。これを真の楽しみという。
3. 人生を大成させる人は一様に、この要訣ヨウケツを体得した人であろう。森信三先生の残された言葉がある。  
「思いあがらず、下坐ゲザに徹して生きる時、天が君を助けてくれる」。  
順逆を超える要訣を見事に結晶した一語である。

(参考:「致知」2012年4月号)

## 人事・労務について

### 日本の価値観を世界に普及させる 櫻井 よしこ(ジャーナリスト)

1. 厚生労働省が1月30日に発表した「将来人口推計」では、日本の総人口は50年後の2060年に8674万人になる。半世紀で人口が4100万人以上減少する。この寂しい風景は、しかし、視点を変えればまったく変わってくる。高齢国家とは、経験を積み一生まじめに生きてきた人びとが多数存在する経験知と良識の固まりなのだ。であれば、彼らの力を活用し、彼らに社会や国の運営に貢献してもらうのがよい。
2. 私たちは、昨年ゴトシの東日本大震災をきっかけに、日本人がどれだけ誠実な人々であったかを、改めて認識した。日本としての大事な価値観を再認識したのだ。この価値観は、戦後日本の主流だった経済成長至上の価値観とは異なる。この価値の再認識こそが日本の未来を切り開く根源的な力になる。日本の価値を生かした国のあり方を日本型モデルとしてアジアにも世界にも普及させることが、日本の真の再生であり、課題である。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2012年2月11日号)